

志布志港長期構想検討委員会（第3回委員会）

－ 議事概要（各委員等からの主な意見） －

「物流・産業」に関する意見

- ・ 原木を中国に輸出しているが、10年～20年後の経済状況が変わった際はこの計画をある程度の期間ごとに見直しを行い柔軟に対応して頂きたい。
- ・ コンテナターミナルのコンテナ管理は人的な目視確認を伴っているのが現状であり、荷役の効率化のためにも荷役車両への車載カメラを設置しコンテナ蔵置の座標（ヤードロケーション）の自動管理が必要である。
- ・ 防災の面で博多・関門から見ると志布志港はポテンシャルが高い港であり、バックアップ港としての利用も考えられる。
- ・ 志布志港の魅力を大々的に示し、担い手の確保につなげたい。
労働力確保が難しく、若い世代の視点で考えて、志布志港の魅力を感じるように、産業、にぎわい、観光、総体的に官民一体とならなければいけない。
- ・ 将来的には、ハブ港として大型コンテナ船が寄港できるようにハード整備を進め、志布志港の拡張も必要である。
- ・ 南九州は第一次産業のものが中心となるが、それを運ぶだけでなく、付加価値を高くしていくことが実現できれば良い。
- ・ 物流の点で輸出など、新たな物流市場の変化がある。柔軟に方針や計画を見直しながら施設整備に取り組んでいただきたい。
- ・ 今後も工事で石材の搬出があり、重機等の移動もあるため現在使用している岸壁近くの利用を続けていきたい。

- ・ ターミナル老朽化，フェリー利用者の利便性や快適性，においやうねりの問題。特に安全性向上のため，ターミナルの移転を早期にお願いしたい。
- ・ 大型船が2～3隻同時に利用できる大きな港の整備を計画していただきたい。
- ・ 港に携わる担い手の確保・育成は非常に大事な取り組みになっている。
- ・ 港を使う事業者にとって使いやすい，成長できる港になってほしい。

「人流・賑わい」に関する意見

- ・ 志布志港の景観を一望できる緑地内の公園など，新しく整備されていけば，若い人たちの人流が多くなり，商工業のほうも発展するのではないか。
- ・ 人流・賑わいは緑豊かな志布志をバックに皆さんに来ていただくのもいいと思うので，益々取り組んでいただきたい。
- ・ 人流は後背地の志布志市の総合計画等とリンクし，港と地域のプランとの連携を密にして考えること。
- ・ 港自体が一つの観光資源であり，インフラツーリズムが観光の対象として何か利用できないか具体的に考えていくことが必要。
- ・ その時々々の若い人達の意見を取り込むことが重要
- ・ 現状との乖離が無いように将来構想を実現できるように，自治体あるいは圏域も含め，地域の意見を取り込んで進めてほしい。
- ・ 非常に実現が待ち遠しい素晴らしい構想になっている。構想は出来るだけ早く実現できればと思う。

「安全・安心」に関する意見

- ・ 流出物ができるだけないような港をつくっていただきたい。
航路確保ができて港に船が着けられないと不便であるため、バースの整備は地震を想定した計画をお願いしたい。
- ・ フェリーを降りてからの二次交通を含めて検討し、一緒に取り組んでいきたい。
- ・ 原木の置き場が分散している今の状況は早めに対応してほしい。
- ・ 作業ヤードに一般の方が簡単に入ってきて非常に危険な港である。
大型船が2～3隻同時に利用できる大きな港の整備を計画していただきたい。
- ・ 志布志港が支援物資の拠点として活用されるよう今後の取り組みや計画を考えていただきたい。
- ・ 津波防災上、木場の移転が望ましい。ただし、木材の引き波による湾内流出や、流出した木材の押し波による陸上・河川遡上を考えると、流出防止柵の設置といった対策も必要である。
- ・ 津波避難時の時間、天候や、寒暖等も考えて、避難経路・場所の整備、物資の備蓄や、避難訓練を行う必要がある。
- ・ 港全体に限らず、海域全体においても志布志港の目指す姿である安全・安心を支える強靱な港づくりというものを目指していただきたい。
- ・ 地震津波シミュレーションは絶対ではないので、時間があればなるべく高いところに避難することを前提に避難訓練などされた方がいい。
- ・ 港湾を利用される方の安全な入出港、荷役作業、今後の整備手順も社会情勢の変化に応じて臨機応変に検討していきたい。